

平成26年度
アイルランド英語研修
キャンプスタッフ派遣
SAJ-SI Internship 2014



派遣期間：平成26年8月10日（日）～9月16日（火）

目次

1. 派遣概要	----- p 3
2. 派遣団メンバー紹介	----- p 4
3. スケジュール	----- p 5
4. アイルランド概要	----- p 9
5. アイルランドのスкауティング概要	----- p 10
6. プログラム	----- p 11
7. お世話になった方々	----- p 26
8. 各係業務報告	----- p 28
9. 日本の遊び	----- p 30
10. 発表内容と評価・反省	----- p 30
11. 派遣員報告	----- p 31
12. 派遣先のキャンプサイト概要	----- p 38
13. 今後についての提言	----- p 42

1. 派遣概要

目的

この派遣は、2015年に日本で行われる第23回世界スカウトジャンボリー（以下23WSJと記す）に向け、日本連盟とアイルランド連盟による合同プログラムとしてローバースカウト世代をアイルランドに派遣し、23WSJにおいてスタッフとして活躍するためにアイルランドにおいて英語の言語能力とコミュニケーションの能力の向上を目的とした派遣である。

今派遣での主な活動としては、アイルランド連盟の管理下にあるキャンプ場、並びに各地の団ハウス、キャンプ場に滞在しながら多くの現地のスカウトたちと交流を深めた。また、キャンプ場のスタッフとして働くなど多くの経験を行った。

派遣期間 平成26年8月10日（日）～9月16日（火）

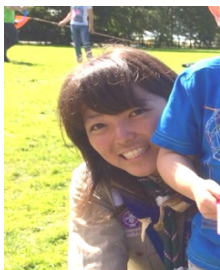
派遣先 アイルランド ダブリン 他

派遣員数 7人

2. 派遣団メンバー紹介



名前	川口 慧
所属	宮崎連盟宮崎第4団
役務	クルーリーダー
あだ名	ジョニー、師匠



名前	別所 沙紀
所属	神奈川連盟横浜第68団
役務	サブクルーリーダー
あだ名	ゴリ子



名前	岡 勇樹
所属	茨城連盟牛久第2団
役務	記録、会計
あだ名	岡ちゃん、棟梁



名前	片岡 理沙
所属	神奈川連盟横浜第68団
役務	記録、会計
あだ名	りさでいん



名前	鈴木 有樹帆
所属	神奈川連盟横浜第114団
役務	渉外、広報
あだ名	ゆきさん



名前	沼上 志帆
所属	東京連盟中野第8団
役務	渉外、広報
あだ名	しほでいん



名前	田添 英嗣
所属	福岡連盟北九州第4団
役務	安全
あだ名	ゴリ

3. スケジュール

日付	時間	活動内容	場所・補足	宿泊場所	
8月8日	14:00	準備訓練・結団式	ボーイスカウト会館	ボーイスカウト会館	
9日	8:00				
10日	6:30	会館を出発	リムジンバス	Larch Hill (ラーチ ヒル)	
	7:30	成田空港 到着			
	10:30	成田空港 出発	KL 862 便		
	15:00	アムステルダム空港 到着			
	16:40	アムステルダム空港 出発	EI 609 便		
	17:20	ダブリン空港 到着			
19:30	ラーチヒルに移動	グレンさんの車			
20:00	到着				
11日	15:00	チャイルド・プロテクション講習			
	16:30	ドイツスカウトと交流			
	19:00	スカウト制度講習			
12日	10:00	マウント メリーに移動開始	高速バス2回、 現地のリーダーの車 荷物運び、テント建て	Mount Melleray (マウント メレリー)	
	16:00	到着			
	18:00	キャンプサイトワーク			
13日	10:00	キャンプサイトワーク	側溝掃除		
	18:00		荷物運び		
14日	11:00	フェニックスチャレンジ開幕			
15日	10:00	大会見学	救急競技見学		
	20:30	日本文化紹介・交流	キャンプサイトにて		
16日	10:00	大会見学	救急競技見学		
	22:30	キャンプファイヤー見学			
17日	15:00	大会閉会	バスにて移動 グレンさんの団	Donore Avenue Scout Den (ドル アベニュー スカウトデン)	
	16:00	ダブリンに移動開始			
	18:30	スカウトデン到着			
18日	13:30	ダブリン市内観光			
19日(A)	9:30	ラーチヒルに移動開始	グレンさんの車	Larch Hill (ラーチ ヒル)	
	10:00	到着			
	15:00	キャンプサイトワーク	テント備品点検		
20日(A)	10:30	キャンプサイトワーク	ロッククライミング見学、撮影		
	13:00		キャンプサイト備品点検		
	16:00		丸太の運搬		
21日(A)	9:30	キャンプサイトワーク	丸太の運搬		
	14:30	パワースコート滝見学	ジーナさんの車でドライブ		
	15:30	ラフ ブレイ湖見学			

19 日(B)	10:45 13:00 15:00	キャッスルサンダーソンに 移動開始 到着 オリエンテーリング	グレンさんの車	Castle Saunderson (キャッスルサンダーソン)
20 日(B)	9:00 9:30 11:00	キャンプサイトワーク アクティビティ体験 キャンプサイトワーク	旗揚げ ロッククライミング 丸太の運搬	
21 日(B)	10:30 11:00 14:30	キャンプサイトワーク アクティビティ体験	トイレ掃除 キャンプファイヤー片づけ	
22 日	22:00 22:30	ラフ ダンに全員集合 派遣隊と交流		Lough Dan (ラフ ダン)
23 日(A)	15:30 18:00 19:30 20:00	ハイキング(Bと同様) ナヴァンに移動開始 到着 別の派遣隊と交流	ナヴァンのリーダーの車	Navan Scout Den (ナヴァンスカウトデン)
24 日(A)	9:00 15:30 17:00 22:30	派遣隊と交流 キャッスルサンダーソンに 移動開始 到着 別の派遣隊と交流	デイビッドの車	Castle Saunderson (キャッスルサンダーソン)
25 日(A)	18:00	散策		
26 日(A)	15:30 18:00	アクティビティ体験	ロッククライミング スタックチャレンジ	
23 日(B)	15:30 17:30	ハイキング(Aと同様) ラーチ ヒル到着	ハイキング後移動	Larch Hill (ラーチ ヒル)
24 日(B)	10:40	キャンプサイトワーク	アーチェリー場掃除	
25 日(B)	10:30 14:00	キャンプサイトワーク	テント点検、ターザン解体作業 水路作り	
26 日(B)	10:30 14:00 15:40 18:00	キャンプサイトワーク オリエンテーリング バーベキュー	オリエンテーリングの事前チェ ック ショップの在庫確認	
27 日	20:00	ウェリントンに全員集合		Wellington Scout Den (ウェリントン スカウト デン)
28 日	11:00	ダブリン市内観光		
29 日	11:00	ダブリン市内観光		
30 日	14:00 20:30	アイリッシュスポーツ体験 カブスカウトと交流		

31 日	13:30 17:00	ラフ キーに移動開始 到着	高速バスで移動	Lough Key (ラフ キー)
9 月 1 日	10:00	キャンプサイトワーク	石の運搬	
2 日	12:00 20:00	アクティビティ体験 現地のスカウトと交流	ペイントボール	
3 日	11:00 14:00 17:30 18:30 19:00 21:00 21:30	ボイル市内観光、 アイリッシュ・ブレックファースト ダブリンに移動開始 到着後、マハライドに移動 到着 カヌー体験 スウォーズ スカウト デンに 移動開始 到着	 高速バス 路線バス マハライドにて グレンさんの車	Swords Scout Den (スウォーズ スカウト デン)
4 日	6:00 11:00	鈴木が日本へ先に出発 スウォーズ観光	5 日に無事に帰国	
5 日(A)	11:30 17:00 19:30	ダブリン市内観光 ラフ ダンに移動開始 到着	グレンさん、Ando さんの車	Lough Dan (ラフ ダン)
6 日(A)	9:00	派遣隊と交流	終日	
5 日(B)	11:30 15:00 18:00 18:30	ダブリン市内観光 キャッスル サンダーソンに 移動開始 到着 派遣隊と交流	高速バス	Castle saunderson (キャッスルサンダーソン)
6 日(B)	9:30	派遣隊と交流	終日	
7 日	19:30	ドノレ アベニューに全員集合		Donore Avenue Scout Den (ドノレアベニュー スカウト デン)
8 日	10:00 18:30 20:00	ハウス(Howth)観光 ドリーマウント スカウト デンに 移動開始 到着	グレンさん、エマさんの車	Dollymount Scout Den (ドリーマウント スカウト デ ン)
9 日	10:00 19:00	ダブリン市内観光 カブスカウトと交流		
10 日	17:00 19:00 19:30	Rush に移動開始 到着 バーベキュー	グレンさんの車、鉄道 ラッシュのリーダーの車	Rush Scout Den (ラッシュ スカウト デン)
11 日	10:00	学校で日本紹介	セカンダリースクールにて	

	17:00	散策		
12 日	10:00	学校で日本紹介		
	14:00	現地のスカウトと交流		
13 日	9:00	イーデンモア スカウト デンに 移動開始	ラッシュのリーダーの車	Edenmore Scout Den (イーデンモア スカウト デ ン)
	9:40	到着		
	10:00	派遣隊と交流	夕方まで	
14 日	10:00	ダブリン市内観光		
	16:00	ホーモント スカウト デンに 移動開始	LUAS(路面電車)	Beaumont Scout Den (ホーモント スカウト デ ン)
	17:30	到着後、ラーチ ヒルに移動開始	グレンさん、エマさんの車	
	19:00	到着		
	19:30	歓送会		
15 日	6:30	ダブリン空港に移動開始	グレンさん、エマさんの車	
	7:00	到着		
	12:10	ダブリン空港 出発		
	15:10	フランクフルト空港 到着	LH 979 便	
	17:45	フランクフルト空港 出発		
	18:35	デュッセルドルフ空港 到着	LH 84 便	
	19:35	デュッセルドルフ空港 出発		
		成田空港 到着	LH 7240 便	
16 日	13:50	成田空港 到着		
	14:10	解団式		
16 日 (田添)	9:50	ダブリン空港 出発		
	11:10	ロンドン空港 到着	BA 5958 便	
	13:30	ロンドン空港 出発		
17 日	9:10	成田空港 到着	BA 5 便	

4. アイルランド概要

○国名 : アイルランド共和国 (Republic of Ireland)

○国旗 : 緑、白、オレンジの三色で構成されている。

緑=カトリック教徒、オレンジ=プロテスタント教徒、白=両者の調和と友愛



○首都 : ダブリン アイルランドの全人口の3分の1がダブリン首都圏に集中するアイルランド国内最大の都市。52.76万人(2011年)

○日本との時差 : 9時間(サマータイム実施中は8時間)

○地理 : 北緯約53度・東経約6度 面積70282km²(北海道とほぼ同じ大きさ)
南北に500km・東西に300km伸びている。

○人口 : 459.5万人(2013年)

○人口密度 : 約65.3人/km²(2013年)

○政体 : 立憲共和制を採用している。1973年EUに加盟。

○通貨 : ユーロ (1ユーロ=約137.5円)

○言語 : 英語 アイルランド語

○気候 : 西岸海洋性気候であり年間の気温差が小さい。

気温 夏=最高…約18度 最低…10度

冬=最高…約8度 最低…2度

○宗教 : カトリック…約86% プロテスタント…約3%

○食文化 : 畜産業が盛んなため、乳製品や肉、その加工食品が多く食されている。ジャガイモは多くの食事に添えられている。島国にもかかわらず魚の料理は少ない。



5. アイルランドスカウティング概要

- 連盟 : Scouting Ireland
- スカウト人口 : 約4万人
- 本部 : ラーチヒル キャンプセンター

◎One Programme

One Programme とは2004年にアイルランド連盟に導入されたスカウト活動の指針になっているプログラムである。

・狙い

身体(Physical)、知性(Intellectual)、感情(Emotion)、社会性(Social)、性格(Character)、精神(Spiritual)を向上させ、より良い社会を作るための人材を育成させる。これらの頭文字を取り SPICES という。

・目的

ビーバースカウト (6～8歳) …「どの様にコミュニケーションを取るか」

カブスカウト (9～11歳) …「コミュニケーションと聞くことの重要性」

スカウト (12～15歳) …「コミュニケーション能力の向上」

ベンチャースカウト (15～17歳) …「効果的なコミュニケーションの実践」

ローバースカウト (18～20歳)

指導者(18歳～)

・プログラムの循環

Plan(計画)…どのようなスキル、知識を向上させるか、そのための活動の計画をする。

Do(実行)…必要なものを準備し、活動に参加する。

Review(反省)…どのような活動が出来たか、何が達成出来たか、どのように改善すればいいのかを考える。



6. プログラム

8月8日～9日

事前訓練。プレゼンテーションの練習や日本文化紹介の練習などをした。

前年度の派遣員の追分さん、野村さん、大倉さんに来ていただき、色々なアドバイスをいただいた。

9日には結団式を行った。



8月10日

朝、アイルランドへ出発し、現地時間夕方に空港に到着。今派遣のサポートをしてくださるグレンさん、エマさんに迎えられ、グレンさんの家へ。夕食にラザニア等を頂いた後、ナショナルキャンプサイトのラーチヒルへ移動、その後就寝した。



8月11日

午後にチャイルド・プロテクションの講習を受けた後、キャンプをしに来ていたドイツのスカウトに23WSJのパンフレット等を配布し、けん玉などで交流をした。



8月12～13日

バスに乗りダンガーバン（Dungarvan）駅に行き、そこから車で競技会（フェニックス/Phoenix）の会場のマウント メレリーへ。夕食後、フェニックス開会に向けて、テント建て等の作業をした。翌日も開会に向けた荷物運び等の作業をした。



8月14日

昨日からぞくぞくとアイルランド、北アイルランドからスカウト達が集まり、フェニックスが開幕。さっそくスカウト達は自分たちのキャンプサイト作りを行った。

8月15日

午前から夕方にかけてスカウトの救急法の見学。キャンプサイト・クッキング・パイオニアリング・ハイキングとそれぞれの場所で救急法を行うというものである。見学だけでなく、スカウトとはもちろん、スタッフのローバースカウトやリーダーたちと交流をした。夜は、スカウト達のキャンプサイトでスカウト達の名前を日本語に書いたり、日本文化を紹介したりして交流した。



8月16日

昨日と同じ救急法を見学。実際にスタッフの仕事を手伝うなどした。夜はキャンプファイヤーの見学をした。

8月17日

キャンプサイトの撤収などして、15時に閉会式があり、その後、バスに乗りへ。この日はグレンさんの団のスカウトデンに宿泊した。

8月18日

午後からダブリン市内観光。グループに分かれて観光や買い物を楽しんだ。

8月19日～20日 (A班)

鈴木、田添、岡、沼上がA班となり、19日から3日間、初めて7人が2つに分かれて、それぞれのキャンプサイトに移動することになった。A班は初日に泊まったラーチヒルに移動した。

19日はテントと炊具の備品点検、20日はロッククライミングを見学、撮影（オフィシャルサイトに掲載するとのこと）した後、丸太と枝をトラックに積み運ぶ作業など、力作業も含めて、キャンプサイトワークを行った。なかなか大変だったが、やりがいのある仕事だった。

21日は午前中に昨日の仕事の続きをした後、午後からはキャンプスタッフのジーナさんの運転でドライブに連れて行ってもらった。なだらかな山々と広大な草原の広がるウィックロウ マウンテンを通過して、パワーズコート滝（Powerscourt）、ラフ ブレイ湖（Lough Bray）湖を見物した。とても壮大で美しかった。途中から雨が降り出してしまったが、それもまたアイルランドの自然を感じさせてとても良かった。



8月19日（B班）

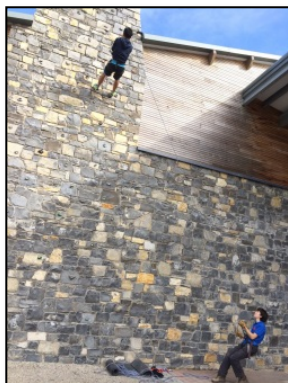
川口、別所、片岡がB班となり、19日から3日間グループ行動をした。B班はキャッスル サンダーソンに移動した。

到着後、オリエンテーリングをした。この日から近くの団のカブスカウト4人とリーダー2人もキャッスル サンダーソンへ活動しに来ていたので軽い交流をした。



8月20日（B班）

この日は午前中にロッククライミングをした後、木を運ぶ作業をした。午後はカブスカウトに折り紙を教えた後、リーダーとカブスカウトと火起こしの練習をした。その後は鬼ごっこをしたりカブスカウトの作った秘密基地を案内してもらったり、沢山遊んだ。夜はカブスカウトたちとキャンプファイヤーをして楽しんだ。



8月21日（B班）

午前中に掃き掃除作業をした。カブスカウト達が帰宅の為、お別れをした。

午後はスタックチャレンジでビールケースを積み上げ、どのくらいの高さまで乗れるか試す活動をした。

8月22日

B班は、午前中はトイレ掃除と、備品の在庫確認をし、14時にバスでダブリンへ。その後、ラフダン（ダブリンから20kmほど南にある）へ移動し、後から来たA班と合流し、全員集合。食事後すぐに、そこでキャンプをしていた23WSJの派遣隊に日本文化の紹介（おりがみ）を行った。アイルランドに来て初めての日本文化紹介であり、緊張したが、初めての割には良くでき、その後の交流に向けて良い経験となった。しかし、22時過ぎとだけあって、メンバーは少し疲れた様子だった。



8月23日

お昼を食べた後、昨日交流した派遣隊とともにウィックロウの山で3時間ほどハイキング（登山）を行った。アイルランドの山々はなだらかで、森はほとんどなく、丘に登っているような感覚だった。そして頂上からの景色は最高だった。

ハイキング後、ラーチヒルに移動し、そこからまたメンバーは2つの班に分かれ、A班はダブリンから北西に50kmほどのところにあるナヴァンという町のナヴァンスカウトデンに移動し、一方B班はそのままラーチヒルに宿泊となった。



8月23日～26日（A班）

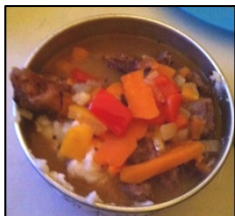
23日の19時半頃にナヴァンに到着し、その後すぐにそこでキャンプをしていた派遣隊と交流をした。

日本のスカウトが来るということで、なんとスカウト達は4種類の手作りの日本料理（カツカレー、うどん、チキンチャーハン、照り焼き）をメンバーに振る舞ってくれた。嬉しいだけでなく、おいし

かった（お米は除く）。食材はダブリンのアジアンマーケットで手に入れたそうで、値段を聞くと、かなり高額で驚いた。その後、キャンプファイヤーに参加し、山賊の歌を披露した。その日はスカウトデンにて一泊した。

次の日（24日）は、スカウトにおりがみなどの日本文化紹介をしたり、リーダーとロープワークで盛り上がりたりした。最後にチーフを贈呈すると、反対にあちらからチーフなどの記念品もいただいた。その後派遣隊と別れ、デイビッドの車でキャッスル サンダーソンに移動した。そしてその日の夜、そこでキャンプをしていたベルファストから来た派遣隊と交流し、双方とも眠いながらもおりがみを教えた。だんだんと要領を掴んで、上手に教えられるようになった。

25日は珍しく一日中雨で、キャンプサイトワークやアクティビティはできず、少し散策をするに留まったが、次の日（26日）、ロナン（Ronan）さんとイオン（Eion）さんの厚意で、キャンプサイトのアクティビティを体験させてもらった。始めに木を利用したロッククライミングをし、次に室内でスタックチャレンジをした。スタックチャレンジはビールケースを積みあげて、どのくらいの高さにまで一人が乗れるかを挑戦するもので、メンバーはかなり良い記録を出せた。

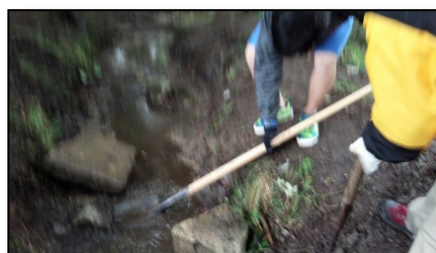




8月24～27日（B班）

ラーチヒルではアーチェリー場の掃除をして使用後のテントのチェック、ターザンの解体作業、水路作り、オリエンテーリング、店のストック確認等をした。26日の夜はバーベキューでアイルランド連盟の方々と一緒に食事をした。

27日は10時にチェックアウトをし、昼にマリンパークに連れて行ってもらい散歩をした。午後は倉庫の掃除をした後、ウィリントン103団のスカウトデンへ向かった。



8月27日

夕方、A班とB班はダブリン市の少し郊外にあるウェリントンのスカウトデンに集合した。ウェリントンは派遣で宿泊した中で一番大きなスカウトデンであった。

8月28日、29日

2日間、ダブリン市内にて観光を楽しんだ。28日はナヴァンで出会った派遣隊のリーダーのスージーさんらと日本食のレストランでランチを食べ、その後、スカウトショップなどに行った。スカウトショップは1階と2階に売り場があり、品揃えが豊富でスポーツショップのような感じだった。次の日はグレンさんの隊のリーダーの紹介で、ギネスストアハウスを見学させてもらった。成人メンバーはできたてのギネスビールを味わうことができ、とても満足している様子だった。また、夜にはスカウトデンで現地のリーダーが様々なキャンプファイヤーソングを教えてくださいました。後の交流でとてもためになった。



お昼すぎからウェリントンのスカウトと一緒に、スカウトデン近くのグラウンドでハーリングやゲーリックフットボールを楽しんだ。夜はその団のカブスカウトと交流した。カブスカウトはその日ハイキングであったにも関わらず、元気いっぱいだった。



8月31日

お昼から、次の宿泊場所であるラフ キーに向け出発した。バスで3時間ほどかけてダブリンから150kmほど離れた Boyle (Boyle) に移動し、そこから現地のリーダー (アニーさんら) の車でラフ キーに移動した。

宿泊場所の掃除をし、夕食を作り、食べ、就寝した。

9月1日～2日

1日は、アニーさんとキャンプサイトワークを行った。サイト内から石 (つけもの石くらいの大きさ) を集めて、小型トラクターに載せ、一か所に積む作業を行った。石を芝生から掘り返す作業が発掘のようで楽しかった。また、リーダーは芝刈り機を運転させてもらいうれしそうな様子だった。次の日は、車で20分ほど移動したところにある、バトルブリッジでペイントボールを体験させてもらった。頭と体を使い、緊張感のあるゲームでとても面白かったが、少々弾に当たると痛かった。夕方からは Boyle のスカウトとキャンプファイヤーで交流した。





9月3日

午前中からお昼までアニーの案内で、ボイルにあるボイル修道院とキングハウス（King House）を見学させてもらった。修道院はヨーロッパの歴史をとて感じさせる建物で、ところどころに謎と要素のようなものもあって興味深かった。そしてお昼はアニーおすすめのレストランで初めてのアイリッシュ・ブレックファーストをご馳走になった。久しぶりにおいしいものを食べた気がした。

アニーらに分かれを告げ、昼食後すぐに高速バスに乗り、また3時間ほどかけてダブリンへと向かった。ダブリンに着き、グレンさんに荷物を預けた後、今度は路線バスに30分ほど乗り、ダブリンの北に15kmほど離れた海沿いの町、マラハイド（Malahide）へと移動した。既に19時頃であったが、たくさんのスカウトが集まっていて、皆で夕日を眺めながら、カヌーを楽しんだ。

そしてその日はそこから車で10分ほどのところにあるスウォーズ（Swords）のスカウトデンに行き、宿泊した。



9月4日

朝早く、日本に先に帰らなければならない鈴木は、皆に見送られてグレンさんの車で空港へと向かった。その後、パリを経由して5日に無事に成田に帰国した。空港には片寄国際委員が出迎えてくださった。

一方、残っている6人のメンバーは、お昼頃から、スウォーズの町を観光。大きなショッピングセンターなどに行った。夕食は、エマさんおすすめのチャイニーズレストランにて中華料理を頂いた。

9月5日～7日（A班）

お昼からダブリン市内に行き、世界で3番目に古い動物園であるダブリン動物園を見学した。細長い広い敷地で、長い時間楽しむことができた。

その後、夕方、グレンさんの車で、マラハイドで会ったスカウトの保護者の方（アンドウさん、日本人の方）の家へ移動し、そこからスカウトとともにアンドウさんの車でラフ ダンに移動した。その日は夜に派遣隊と少し交流し、就寝。

次の日は、朝から夜まで派遣隊と交流した。パイオニアリング、キックベース、キャプチャー・ザ・フラッグ（Capture the Flag/チームごとに旗を隠して取り合うゲーム）、スリップ・オン・スライド（Slip on Slide/芝生にシートを敷いて行うウォータースライダー）、ボグ・ラン（Bog Run/泥だらけになりながら森を進む遊び）、などを体験、見学したほか、夜は23WSJについて資料を使って紹介したり、キャンプファイヤーに参加したりした。スカウトにジャンボリーの紹介映像を見せると、皆真剣に見入っていたのが印象的だった。

7日は午前中に派遣隊と交流し、最後にリーダーにはっぴをプレゼントした。解散後、派遣隊のリーダーの方の車でダブリンに移動した。そしてグレンさんの車で、グレンさんの隊のスカウトデン（Donore Avenue）に移動し、全員集合した。



9月5日～7日（B班）

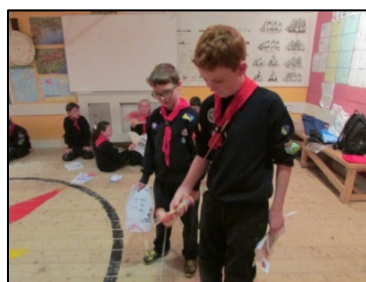
B班はキャッスル サンダーソンで活動。23WSJの参加隊と一緒にボートを作りレースをしたりした。また、私たち日本スカウトがアイルランドのスカウトに対し、アイルランド連盟のネッカチーフを授与させていただいた。



9月8日～9日

A、B班ともに、それぞれのキャンプサイトを出発し、夕方にダブリン湾内の島、ブル・アイランド（Bull Island）にあるドリー・マウントのシースカウトデンに到着。夕食後、就寝。

次の日（9日）、午前中はダブリンにて観光を楽しんだ。夕方からはスカウトデンにてカブスカウトと交流し、お箸の使い方、日本語、着物、柔道などの日本文化を、遊びを通して伝えることができた。カブスカウトは元気いっぱいの様子だった。また、交流後に記念として隊のチーフを頂いた。



午前中は各自片づけ、掃除、自由時間。夕方から移動を開始し、鉄道を利用してダブリンの北にあるラッシュ村に行き、7時半頃にラッシュのスカウトデンに到着。そしてすぐに、ラッシュのスカウトや議員が集っているバーベキューに参加し、作り立てのハンバーガー食べた。

また、議員の方に記念にアイルランド独立の宣言文などを頂いた。

次の日(11日)は午前中からお昼過ぎまで、ラッシュ村にある学校(St. Joseph's Secondary School)で4つの教室を現地の日本語教師の方とともに周り、プレゼンテーション、折り紙などを使って日本文化の紹介を行った。日本語を習っているクラスでは、生徒から日本語で質問され、なんだか新鮮に感じた。

夕方にはドゥークさんに村を案内してもらい、現地のサッカー少年団やゲーリックフットボールクラブの練習を観戦した。

12日は、午前中は昨日と同様、学校にて日本文化やスカウト活動について、短い時間だったが紹介を行った。

お昼を食べた後、ドゥークさんが友達を集めてくれ、村にあるサッカーコートで皆で野球やサッカーを楽しんだ。そして夕方には10日と同様にバーベキューにも参加し、現地のスカウトやリーダー達との交流を楽しんだ。とても盛り上がり、チーフなどの記念品もたくさん頂いた。特に、スカウトが書いてくれたメンバーの似顔絵はとてもうれしかった。



9月13日

9時頃ラッシュ村を出発し、40分ほどでダブリン市内にあるイーデンモアスカウトデンに到着。10時頃から夕方まで、前回A班が交流した派遣団の集会に参加し、前回できなかったプレゼンテーションなどを行い、ジャンボリーや日本について紹介することができた。また、記念に派遣団のオリジナルチーフを頂いた。



9月14日

午前中から夕方まで、最後のダブリン観光に出かけた。前日に派遣団のリーダーのスージーさんから頂いた観光バス（ガイド付き）のチケットを使い、ダブリン市街を一周し、ダブリンの歴史や文化を知ることができた。夕方にボーモントスカウトデンに荷物を置いた後、19時からラーチヒルにて派遣中にお世話になった方々を招待して、歓送会を行った。現地の日本大使館の方や、アイルランド連盟のCEOの方にも参加していただき、和やかな立食パーティーとなった。

会の最後に、各自アイルランドの思い出や感謝の言葉を述べて、日本連盟からの記念品を贈呈した。最後のあいさつでは、アイルランドでの思い出を振り返って涙するメンバーもいた。

また、アイルランド連盟から各メンバーにこのプログラムの記念品を頂いた。

閉会后、グレンさんとエマさんに近くのパブに連れて行っていただき、皆で思い出話や最後のアイリッシュミュージックを楽しんだ。



9月15日～17日

15日の朝6時半頃に、グレンさんとエマさんに空港まで送っていただき、最後のお別れをした。しかし、何事もなく帰れると思った矢先、空港で、当日の飛行機がストライキによりキャンセルになったことを知る。そして、カウンターに行き代わりのチケットを手に入れるも、田添だけが次の日の便となってしまう。そのため15日は、田添は近くのホテルに泊まり、16日の10時の便で出発した。

他の5人のメンバーは、当日の12時10分発の便に乗り出発。

本来の予定とは違い、ドイツのフランクフルト、デュッセルドルフを経由して成田空港に16日の14時に到着し、日本連盟の片寄国際委員に来ていただき、解団式を行い、各自解散した。

また、17日の朝9時に、ロンドンを経由し、田添が成田空港に到着。これで派遣団員全員が無事に帰国となった。最後まで気が抜けない派遣であった

7. お世話になった方々

Glenn Webster



Emma



Navan(ナヴァン)で会った23WSJの派遣隊のリーダー

Alan Walshe



Suzie Rafter



Greg Boyd



David McMullan



Lough Dan(ラフ ダン)で会った23WSJの派遣隊のリーダー

Fiona McCann



Sibhan Ball



Jim Munnay



Simon Lawlor

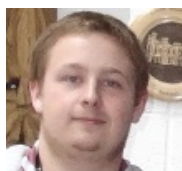


Castle Saunderson (キャッスル サンダーソン)

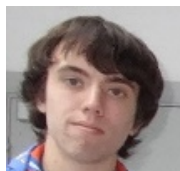
Tony Smith



Eion



Rónán Schütte



Larch Hill(ラーチヒル)

Ruth Hughes

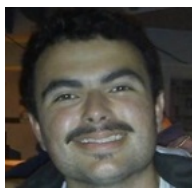


Rush(ラッシュ)

Dave Ckarke



Daniel Duque



Claire Coady



Mount Melleray(マウント メレリー)

Stephen Carey



David Shallo



8. 各係業務報告

クルーリーダー（川口）

○業務内容

グループメンバーの管理

○評価・反省

今回、クルーリーダーとして活動させてもらったが、同じ年代であり、みなそれぞれが過去にいくつか活躍してきたメンバーであったため、リーダーとして役目もなく役に立たなかったかもしれないが、役目が少ないことに甘え、メンバーの体調不良に気を遣えなかったことが申し訳なかったと感じる。その他の役務のメンバーがしっかりと責務を全うしてくれたのでクルーリーダーとしては今回特別行うことはなかった。

サブクルーリーダー（別所）

○業務内容

グループメンバーの管理・クルーリーダーのサポート

○評価・反省

サブクルーリーダーとしてメンバーのサポートはできたのではないと思う。しかし、クルーリーダーのサポートという面では特になにもできていなかったように感じる。リーダーやサブクルーリーダー以外のメンバーもとても心強かったためとても感謝している。

安全（田添）

○業務内容

派遣隊全体の安全管理及び予防

○評価・反省

安全係としての仕事は今後起こりうるアクシデントを予測するというを中心に行ったが各々が注意深く行動をとっていたため私が声をかけることはほぼなかった。

しかし、現地の調理器具やキャンピング用品が扱いづらいことがあり、怪我を負ったという班員が数名いた。これほど道具が異なるとは想定外だった。もっと多くの怪我のパターンを予測して行動をとらないといけないと痛感した。

○今後へ

慣れない環境での活動は派遣員の体力を大きく消耗しそこから体調不良へとつながる。長期派遣では必ず全員一度は体調を壊すと思ってよい。そこで班員の体調を常に把握して体調が悪い人は無理をさせない。そして先に次の活動内容から様々な危険を予想し予防を徹底し、注意を促す必要がある。

記録・会計係（岡、片岡）

○業務内容

事前訓練においての決定内容や、派遣期間中の行動内容を記録、撮影した。

派遣中の記録は、毎日、日報を作成して、そこに日時や天気、活動内容とその場所・時間、宿泊場とその設備、お世話になった方の名前、派遣隊としての使用金額を書き入れた。また、活動中の写真を撮影し、時間や場所によって区分した。

会計は、派遣隊として金額を使用した際に、領収書を保存し、帳簿にその金額を記録した。

そして派遣後に余った金銭（ユーロ）を日本円に換金して、領収書などとともに日本連盟へと返納した。

○評価・反省

日報は、実際には毎日作成する余裕があまりなく、班員日替わりで日々の事をメモ書き程度に記録し、余裕が出たときに記録係が数日分をまとめて日報にしていた。

しかし、後半の予定分をメモしたものが携帯の故障で無くなってしまった時は、写真からたどったり、班員で相談したりして内容を思い出し、記録を作成した。

会計は、使った時に必ず記録し、専用の財布を作っていたので最終的にもきちんと金額が合った。しかし、領収書を発行がされないお店、バスがあった際には仕方なく帳簿のみに記録して、会計報告するほかなかった。

涉外、広報（鈴木、沼上）

○業務内容

アイルランド連盟担当者（グレンさん）との連絡、交渉を行う。

事前訓練～派遣期間中の活動の様子をフェイスブックに投稿、更新する。

○評価・反省

フェイスブックに活動の様子を投稿する際、初めは日本語のみの投稿しかしていなかった。前年度派遣員に指摘されてからは日本語と英語両方の投稿となり、日本・アイルランド共により多くの人に活動内容を知ってもらうことができた。また、自身の英語能力向上を促す事もできたと思う。

しかし、前年度派遣の報告書にネット環境がない時の対策案が記載されていたのにも関わらず、ネット環境がない時に投稿が途絶えさせてしまった。事前にネット環境がない時の対策案を考えておく事、次に行く場所のネット環境の有無を早めに確認することが必要だった。

○次年度へ

少しの間でもネットが使えるのなら1日1回はフェイスブックの更新をした方がよい。後日まとめてやろうとすると情報量が多くなり、逆にまとめづらくなってしまう。また、活動内容をだけでなく、自分たちが元気である事も伝える事が重要である。

今回の派遣ではアイルランドに行く以前から2班に分かれて活動する事は聞いていたが、その際にどのように更新するかは決めていなかった。自分たちの派遣ではどのように活動するかを事前にアイルランド連盟担当者から確認を取り、それに合わせて更新方法を少なくとも各班1人ずつは共有しておく必要がある。

9. 日本の遊び

折り紙で折り鶴やピカチュウ、手裏剣を説明しながら実際に折ってもらった。

○反応 指導者、スカウト共に楽しんでもらえたと思う。

○評価反省

アイルランド派遣に行く前に折り方の説明を考えてもらっていたが、それを読み込んでいなかった為、実際に見せながらの説明しかできなかった。自分が英語での説明が出来れば、もう少し効率よくできたと思う。

鶴を折っている時に、折り方が難しく諦めてしまうスカウトが出てしまった。そういったスカウトへのフォローも考えておくべきだった。

○改善事項

今回は上記の3つの折り方しか行わなかったが、もう少し折り方が簡単なもの(兜や兎など)を用意しておけばよかった。

折り紙は無地の他、キャラクター物、千代紙、キラキラなど幾つか種類があった方が好きな柄を選べるので良いと思った。

10. 発表内容と評価・反省

○日本紹介

●プレゼンテーション内容

パワーポイントを用いて、順に、日本の場所と大きさ、東京、鉄道、スカイツリー、富士山、京都、日本食、珍味、相撲、アニメを紹介していった。「かえるのうた」のスライドも用意していたが、時間があまりなかったため、使うことはなかった。

所々にクイズを入れたり、こちらから質問したりして、なるべく皆が参加できるようなプレゼンテーションにしようと試みた。

●評価、反省

実際にプレゼンテーションをした回数は5回ほどであったが、後半の方では、緊張がほぐれてきて、落ち着いて発表することができた。しかし、やはり発音や文法、声の大きさが問題で、英語が伝わらない事があり、その際にはまわりのリーダーの方や教師の方にフォローしていただいたことが多々あった。

指定された時間で発表することはなかなか大変であったが、アドリブを多用したり、上手に一部を飛ばしたりして、なんとか上手くいった。

細かい内容を見ていくと、こちらの予想通り、「珍味」の項目は皆の驚いた反応があり良かった。また、相撲の紹介で少し冗談の動画を入れたのも良かった。ただし、全体的に見てもっとこちらとしては反応して欲しく、もっとスライドやクイズを工夫し、多くの単語などを知っておくべきだったと反省している。

11. 派遣員感想

アイルランド派遣を通して

宮崎連盟宮崎第4団ローバー隊 川口 慧

私は初めてのボーイスカウトの海外派遣にて多くのことを学び、多くのことを経験できたことに感謝と共に今後活かせることができるように今後精進できるように多くのことを考えさせられることができた。今回の派遣において、私は大きく3つのことを学ぶことができた。

まず、アイルランドという国の文化や特色を多くの人と触れ合う中で学ぶことができた。今回、初めてヨーロッパに行く機会ができ、日本とは全く違った中での生活は日本での生活がどれだけ豊かなものであるかが知れた。日本での生活に比べ、言語で通じる部分で難しいところがあり、交通の便でも不便なところもありこの一か月間での生活でどのように効率良く生活していくか多く考えさせられ、普段のキャンプ生活と同じく改善していく日々であった。しかし、日本と違うところはわからないことを見ず知らずの人に聞いても遠くから来た日本人であったからかもしれないが、多くの人が親切に交通の使い方や分かりやすい英語での説明を行ってくれるところは素晴らしい国だと思ったところである。最近では、案内所に行っても親切に教えてくれることも珍しい日本に比べてとても刺激に感じ、人が忙しくざわめく日本とは違い、国の雰囲気も落ちつき、治安が悪いと言われるヨーロッパの中でも予想していたよりは治安もよく安心して過ごすことができた。生活の中で多くの場面で日本と比べ、多くの場面で日本の良さも知ったが、反対に日本の悪いところも見えて、すべての日本がよい場所であるということではなく、これから日本も見直し、良くしていかなければならないと感じた。

次に、この派遣で多くのスカウト関係者並びにスカウトに会い、アイルランドでのスカウティングを学び、日本との違いを感じた。この派遣において、大きく感銘を受けたのはフェニックスチャレンジというアイルランドで毎年行われている大きな大会は素晴らしいものであった。世界ジャンボリーに行っていないのでわからないが、日本ジャンボリーよりは充実しているものであった。スカウトたちがリーダーとこれまで培ってきた技術や精神を自身によって扱い、それをまた違った視点で指摘を受け新しい知識や技術を多くのスカウトが身に付けやすい大会であったと思う。また、アイルランドでのスカウティングは土日にキャンプなどを主にし、その日程に合わせて学校終わりに各それぞれのスカウトハスでスカウト技術やスカウト精神を培うために活動をしていた。更に少しでもキャンプの日程を増やすためにも金曜の夜からキャンプを行っていた。日本のスカウティングは土日限定だけに縛られ、少ない日程の中での章を取ろうと目指すために、すべてのスカウトが自信をもって富士や菊を胸張ってスカウティングを行っているのかを再度見つめなおし、充実したスカウティングを行うために今後、私も指導者の立場に立ちながらどの国のスカウティングにも劣らない様にスカウト達に指導をしていけたらと考える。勿論、現代の日本のスカウティングはスカウト人口も減り、アイルランドのように平日などを使うことは難しいと考える。そしてアイルランドのスカウトは平日にも関わらず多くのスカウティングが参加しているのが現状である。その理由として、活動が如何に楽しいものであり、充実しているものであるかがわかる。日本のスカウティングの問題としてスカウト人口の減少があり、理由として活動の充実さがかけていると考える。今後の課題として如何に少ない時間でより充実したスカウト活動を過ごせるかが課題となるだろう。この問題をなくすためにも自分自身がまず楽しむことの大切さが重要であるとアイルランドでのスカウト、リーダーの活動見て、体験し考えさせられた。

最後に、今回の派遣は指導者なしでの派遣であったため、自分の新しい一面を発見することができ

た。初めての海外派遣にして、初めてのクルーリーダーをやらせてもらった。他の参加スカウトは海外経験やスカウト経験が豊富であったため、迷惑をかけた部分があったかもしれないが、今回、自分自身の自信につながった。英語で話しかけることは大学でも行ってはいたが、自信をもって積極的にコミュニケーションをとっていくことが面倒であったが、英語で話さなければならない環境に置かれることで必死に伝えようとすればなんとかなるという心がけをもって、今後更なる国際交流を行っていきたいと考える。また、異文化に触れることで新しい考え方や視野を養うこともでき、今後の学生としてもスカウトとしても活かすことができるように励みたい。

今回、1か月という長期の派遣で、経験したことのないばかりの活動を行うことで多くの経験と感性を養うことができた。多くの人々にこのような経験をさせてもらったことに感謝をしながらも、これからの多くのことに活かせるように無駄にならないようにしていき、これからの23WSJも含めたスカウト活動に貢献できるよう頑張っていきたいと考える。

アイルランド英語研修・キャンプスタッフ研修を終えて

神奈川県連盟横浜第68団ローバー隊 別所 沙紀

この派遣に参加する半年前に大学のプログラムを利用して一か月イギリスで短期留学をしていました。それが初めての海外ということもあり私はホストファミリーとすらもうまく会話ができず、洗濯物を頼むので精一杯でした。帰ってきてからというもの後悔をし続けていました。そのような失敗を二度としたくないという思いから、このアイルランド派遣での一番の目標に「積極的にコミュニケーションをする」と掲げました。アイルランドに到着してからフェニックス（Phoenix）と呼ばれるアイルランド中のスカウトが集まる大会に参加させていただきました。そこではスタッフとしても少し参加し、見学もたくさんさせていただきました。世話をしてくれるはずだった人が主催者だったため、忙しすぎて私たちにまで手がまわらないということも多くありました。そのため何をしていたのか、何時から活動なのかなどわからないことだらけでした。もし前までの自分だったらわからないからと言われるまで待機していようというような人間だったとおもいます。しかしわからないものはわからないとはっきり伝え、次に何をしたらいいのかなど自分で聞きに行くことによってコミュニケーションをとるチャンスを得ることができました。そして暇な時間も多くあったため、その時間に外に出て多くの方と会話を楽しむことができました。この暇な時間を有効に使えたというのはとても大きかったと感じます。そうしたことから、やはり自分から動くことがなによりも大切だと実感し、自分の行動次第で得られるものの量や質は変わってくるものと感じました。

そしてコミュニケーションをとるということは、英語で会話をするということに限ったことではないということを感じました。23WSJ派遣団のプログラムに参加させていただいた際に川を渡るためのいかだづくりレースをしました。いかだを作っている最中は皆が無我夢中になり作業していたため英語を考える余裕もなく、ジェスチャーと日本語で話しかけていた場面もありました。それでも意志疎通をすることができハイタッチをして喜びを分かち合ったり、写真を撮ったりしてとても楽しい時間を過ごすことができました。たとえ英語が流暢に話せなかったとしても自分が周りと一緒に楽しもうとすれば楽しめること、コミュニケーションをとれるということを改めて学びました。

反省点は、やはりもっと日常で使う単語の勉強をしていけばよかったと感じました。受験勉強の単語は実際の生活の場では使わないものも多くもっと日常で使えるような単語を勉強していくべき

だったと感じました。そうしていればもっと話の幅を広げることができたと反省しています。

このアイルランド派遣ではたくさんのコミュニケーションをとることができ、たくさんのことを学べたと自分では感じています。それはアイルランドで出会った方々が本当にあたたかく優しい方々だったからこそできたことだったと感謝しています。同時にこのようなプログラムを計画してくださった日本ボーイスカウト連盟の方々、派遣に参加させてくれた家族、そして一か月間ともに過ごしてくれた6人の仲間に感謝しています。

アイルランド派遣を終えて

神奈川連盟横浜第114団ローバー隊 鈴木 有樹帆

私はこの派遣に行くにあたって、不安な事がいくつかありました。1つ目は自分が派遣員の中で最年長ということでした。今までの私が経験してきた活動では、スカウトだけで活動する事や、同学年が自分1人ということがありませんでした。今回の派遣は7人という少人数でしたが、アイルランドで自分達だけで行動しなければならず、その中で最年長が自分1人だけということに少しプレッシャーを感じました。私は大学の関係で他の派遣員よりも早く帰国しなければならなかった為、クルーリーダー・サブクルーリーダーにはなれませんでした。時には派遣員をまとめる事もあると思っていたので、自分にできるかどうか不安でした。2つ目は海外旅行、海外派遣の経験がないことです。他の派遣員はWSJやオーストラリア派遣、短期留学など、最低1回は海外に行ったことがありますのに対し、自分は今回の派遣が初めての海外。しかも、英語が達者なわけではなく、寧ろ苦手分野でした。正直焦りもありました。3つ目は、自分だけ早い帰国という事です。海外旅行の経験もなければ、英語が喋れるわけでもないし、しかも早い帰国なので、他の派遣員に迷惑をかけてしまうのは必至だと思っていました。そんな不安がある中で、アイルランド派遣は始まりました。

実際に派遣が始まって感じたのは、英語が喋れない以前に聞きとれないということでした。自分達の為にわかりやすくゆっくり喋ってくれる人もいましたが、地域、人によっては訛りが強く、聞き取ることが出来ないことが多々ありました。訛りが強いものもありますが、自分の耳が英語に慣れていない事もその原因の1つだったのでしょう。また、事前集会の際に「自分の心を閉ざしてしまうと、相手が何を言っているのか分かる事もわからなくなってしまう」と言う事を聞きましたが、それもあったのかもしれませんが。途中で「英語も喋れないし、聞き取ることもできない。なら自分が分からなくても誰かに聞けばいいし、答えてもらえばいい」と思うことがありました。今思えば、心を閉ざしていたのでしょう。「伝えたい気持ちがあるなら単語を並べるだけでも相手に伝わる。積極性が大事」と派遣員の中でも話していたのに、心を閉ざしてしまった自分が恥ずかしいです。

そんな時に、23WSJアイルランド派遣団の訓練キャンプに参加しました。訓練キャンプでは、班に1人日本人スカウトが入り、コミュニケーションを取る機会が多々ありました。この状況下では英語を話さない、聞かないというわけにはいきません。それまでで1番多くコミュニケーションを取った機会でした。日本人だというのをわかっている為、アイルランドスカウト達は自分にわかりやすいようゆっくり話してくれたし、それでもわかってない場合はもう少しわかりやすいように言葉を変えて話してくれました。その優しさが嬉しかったです。また、単語を並べ、動きも交えながらたどたどしく話すだけでも、こちらが一生懸命話そうとしていると向こうの人はそれを汲み取ってくれ、意味をわかってくれました。ここで、積極性の大事さがよくわかりました。

次に感じたのは食文化の違いです。アイルランドに行ってから、基本的に朝食はトーストで、昼食もパンのことが多かったです。ご飯が出る事もありましたが、日本米ではなくタイ米でした。料理は薄味のものが多かったですが、ソーセージやベーコン等は味が濃かったように思います。アイリッシュ・ブレックファースト (Irish breakfast) やアイリッシュ・シチュー (Irish stew) など、あまり馴染みのない料理もありましたが、どれも美味しかったです。

しかし、初めての海外、慣れない食事にストレスを感じたのか、1週間も経たないうちに軽い胃炎になってしまい、3～4日の間何も食べられなくなってしまいました。持病もあり自分の身体があまり強くない事は自覚していましたが、まさか自分が最初に倒れるとは思っていませんでした。胃炎になった日の夜、田添君が脱水の危険を示唆し水を差しだしてくれ、「食べられるときに食べてほしい」と言い林檎を剥いてくれました。沼上さんは一緒にいてくれたし、別所さんは私の分別の料理を作ってくれました。他の派遣員達も私の事をとても心配してくれました。自分の為に皆がここまでしてくれるとは思っていなかった為、皆の行為がとても嬉しかったです。この時、このメンバーで来てよかったと心から思いました。感謝してもしきれないです。

様々な不安がある中で始まった派遣でしたが、特にその事を考える暇はなく、日々沢山の事を経験できました。全く考えなかったわけではありましたが、長期間集団生活をする難しさや、当日行われる活動、数日分のスケジュール管理、体調管理を考える事の方が多かったと思います。前年度とは違い女子スカウトは多かったですが、多いからこそ考える事もあったし、事前集会在1回しかなく、派遣員全員について深く知る前に派遣に入ってしまったので、派遣が始まってすぐの時はそれに少し困りました。しかし、日々過ごしていく中でその不安はすぐになりました。少人数であっても全員と少しずつでも話して行くことが大事だと感じました。

今回の派遣で、様々な事を見聞きし、経験をする中で沢山の事を学びました。この経験を今後の活動に活かしていきたいです。また、他のスカウトにもチャンスがあるなら様々な派遣に行ってもらえるよう伝えたいと思います。

アイルランド英語研修・キャンプスタッフ研修に参加して

福岡県連盟北九州第4団ローバー隊 田添 英嗣

アイルランド英語研修・キャンプスタッフ研修に参加するにあたって私の目標は23WSJに参加する予定なので海外派遣経験者として成長するということであった。

まず一番の壁は英語であった。海外派遣において英語は最も重要ということは分かっていたがここまで苦勞するとは思わなかった。周りの人は英語が堪能で、どんどん交流をしていたが私は自信の無さからか序盤はあまり積極的に話すことが出来なかった。しかし中盤からは通じなければ諦めずに何度も話そうという気持ちを持つようになると、どんどん話すことが出来るようになった。

次点はいち早く他国の文化を受け入れる難しさであった。一番困ったのは急に予定が変更になることが非常に多く、時間通りに進めることがなかなか出来なかったということであった。徐々に慣れてきたが最後までこの点に関しては苦勞した。

私はこの派遣で多くのことを学んだ。一点目は日本と同じくアイルランドもスカウトが楽しくかつ有意義に活動するために様々な工夫をするということであった。私たちが交流したほとんどが23WSJの派遣隊であったがすべての隊で一日二回は班対抗のゲームを行ったり、班や隊全体での

フリータイムを多く設けたりするなど行っていた。

二点目は日本より自然に密接した活動であった。森の中や海、湖など日本より豊かな自然を活かして様々な活動を行っていた。特に海のプログラムを中心に行うシースカウトは自然と共存するが故に出来た素晴らしい活動だと思った。

一か月海外で過ごすというのは初めてのことでビーバースカウトから同世代のローバースカウト、そして経験豊富な指導者というたくさんの人々と交流、様々な歴史的建造物が立ち並ぶ街での観光、飛行機のトラブルで延泊など様々なことを肌で感じる事ができ、スカウトとして人間として飛躍的に成長することが出来たと思う。

私はこの派遣でコミュニケーションの大切さ、長期海外派遣の難しさを痛感した。私はこの経験を今後のスカウト活動や日々の生活に活かし、成長していきたいと思う。そして一か月行動を共にした6人のメンバーを含めこのような素晴らしい機会を与えてくださったすべての方々に感謝したい。

アイルランド派遣で感じたこと

神奈川県連盟横浜第68団 ローバー隊 片岡 理沙

私の中で近い内に行きたい国ベスト3がアイルランドであったこと、今派遣の目的が23WSJに向けての英語研修ということで、今派遣の募集が出たときは、絶対に参加したい！と強く思い、日本連盟の試験、面接に向けて準備を始めていました。派遣員に任命していただいた際には、自分の中で、目標を掲げました。それは、“自分から積極的に英語を話す”。というのも、平成23年度オーストラリア短期留学派遣に参加させていただいた際に、現地で消極的になってしまい、自分から英語を話すことが少なく、悔しい思いをしたからです。そんな思いで今派遣に参加しました。

アイルランドに着いて周りを見渡すと、空港内や街で見かける表記が英語の他にアイルランド語で表記されていて、自然が多いところをみて、アイルランドはアイルランド語、自然を大切にしている国だと感じました。また、季節は夏でしたが、気温が低く、ひんやりとした空気が心地良いものであり、そんな中で始まったアイルランドでの生活は色々なことを多く感じながらも楽しい経験となりました。

数日ごとにナショナルキャンプサイト、スカウトデンを移動していたため、多くのスカウト、リーダーたちに出会うことが出来ました。会う人たちは話しかければフレンドリーに対応してくれる人達ばかりで、日本文化を紹介したり、色々なお話しをして交流を深めたりして楽しい時間を過ごせました。また、日本にはない、海で活動するシースカウトというものがあり、とても興味深かったです。そして、アイルランドの海はとても素敵です！スカウト活動以外では、アイルランドのスポーツであるゲーリックフットボールを体験できたことや、アイルランドの音楽に触れられました。アイルランドの音楽はとても耳に残る素敵な曲ばかりで、派遣中いつも口ずさんでいました。

3年前は消極的だった自分も、今派遣では積極的になれました。アイルランドから帰ってきて、自分の成長を感じています。例えば、大学の英語の授業に対する意識が変わり、確実に英語を発する回数が増えました。今派遣の自分の目標は達成できたのではないかと感じています。

最後に、日本連盟、アイルランド連盟をはじめ、この派遣に携わっていただいた多くの方々に感謝します。大学1年生の夏休みを今派遣で、アイルランドという素敵な国で過ごせたこと、とても幸せに思っております。ここで感じたこと、学んだことは23WSJ、またその後のスカウト活動に活かしていきます。本当にありがとうございました。

アイルランド派遣を終えて

茨城県連盟牛久第2団ローバー隊 岡 勇樹

今回、私はこの派遣に参加して、今までしたことのない事を多く経験し、様々な事を学んだ。そして、これから自分がどのように生きてこうかということも、少しずつだが見えてきた。

アイルランドから日本に帰り、少し時が経ち、振り返ってみて今一番思うことは、本当に楽しかったということだ。ただ、それと同じくらい本当に悔しいとも感じている。

アイルランドでの生活は、予想していたものとはかなり違い、とても多くのスカウトとの交流の機会があった。その時に、英会話があまり上手にできない私は、交流できなかった訳ではないが、ためらって、何度もその機会を逃してしまうことがあった。それが今一番悔しいことだ。もっと英会話を練習して、派遣に臨むべきだったと後悔している。

しかし、そのような経験をして、そう強く思うことで初めて英語を習得しようというモチベーションが生まれた。これは私が生きてきた中で一番強いものだ。この派遣は、私がそのように反省し、実行し、達成することで真に意味があるものになるはずだ。そういった意味でも、私はこの派遣に参加して本当に良かったと思う。

楽しかった経験に話を戻すと、アイルランドでの生活は本当に充実していて、今まで行った中で一番好きな国となった。

具体的には、キャンプスタッフとしての仕事、アイルランドの人、音楽、街、自然などの文化やその風土を肌で感じたこと、そして何より、スカウト達との交流や、またそのリーダー達との交流などで、しかもそれが予想外、予定外に起きるので、本当に毎日がドキドキとワクワクに満ちていた（おそらく予定はそもそもなかったのだと思う）。現地の人との対話や雰囲気、次の事が決まっていくという事は、私個人的には最高に良かった。人生は予想できないからこそ面白いものだと思うからだ。そしてもう一度、今度はもっと英語が話せる状態で必ずアイルランドに行きたいと思う。

また、そのような充実した派遣を経験できたことには、多くの方が私たちを支援してくれたことを忘れてはならない。

暖かく迎え入れてくださり、そして困ったときは助けてくださった、グレンさんをはじめとするアイルランド連盟の方々、いつも楽しい雰囲気で、そして裏ではチームのことをしっかり考えていたリーダーをはじめとするチームの皆、お忙しい中、私たちのために、たくさんのアドバイスをしてくれた前年度の派遣の先輩方、このプログラムを良いものにできるように多くの努力をしてくださった日本連盟の国際部の方々、このような派遣があることを教えてくださり、期限間近だったのにも関わらず私を推薦してくださった団委員長、隊長、茨城県連盟の方々、そして何より金銭的に支援してくれた両親に感謝しなければなりません。本当に皆さまありがとうございました。

そして最後に、23WSJを成功できるように努力することを誓い、派遣後の反省を終えようと思う。

アイルランド派遣に参加して

東京連盟中野第8団ローバー隊 沼上 志帆

私は、今までに22WSJや16NJに参加し、アメリカのスカウトとキャンプをして外国のスカウトと交流をしたことはあったけれど英語を話して過ごすということがなかったので23WSJにIST（国際サービスチーム員）として参加したときに英語が話せなくて何もできなかったということが無いように英語力の向上と積極的にコミュニケーションをとる事を目標に今回の派遣に参加しました。

英語は苦手意識が強く本当に1か月間も英語だらけの環境に行って本当に大丈夫なのかと不安でいっぱいでした。結果として目標を達成できたと自信を持って言えないけれどリスニング力は鍛えられたと思います。最初は全然聞き取れなくて次の指示もわからなくて派遣の仲間に聞いていたけれど、派遣の後半になるにつれて英語が聞き取れるようになっていくのを実感して嬉しくなっていました。それでもなかなか自分から話しかける勇気が持てなくてあまり話すことができなかった事を後悔しているので23WSJに参加した時にはもっと勇気をもって今回の派遣で会った人たちに話しかけにいくだけでなくほかの国から来た人達にも自分からどんどん積極的に話しかけに行って友達をたくさん作りたいと思っています。

今回の派遣ではたくさんの23WSJの派遣隊のスカウトに会いました。日本について聞かれても普段何気なく過ごしていて日本について意外に知らなかったことや、23WSJのPRをするために行っているのに23WSJについて聞かれたことに答えられなかった事があったので準備不足を反省しました。自分が22WSJに行ったときに知りたかった情報をもっと思い出してみるべきだったと思いました。また、自分の地区の派遣隊とアイルランドの派遣隊の交流会のセッティングをして23WSJに参加するスカウトにジャンボリーを存分に楽しんでもらいたいと思います。そしてキャンプファイヤーをする機会が何回もあって、様々なキャンプファイヤーのゲームや歌を知ったのでジャンボリーの交流会や自団でのキャンプファイヤーをする際にその歌をスカウト達に教えてみたいと思っています。

1か月間アイルランドで過ごしてたくさんのスカウトとの交流だけでなくアイルランドの文化を知り、観光もできてとてもいい経験になったと思いました。今度は自分が指導者という立場になるので自分が今回の派遣でした経験を生かして海外派遣の派遣隊リーダーをし、自分が外国のスカウトとの交流に興味を持ったようにぜひスカウトたちにも興味をもってもらえるように努力したいと思います。

12. 派遣先のキャンプサイト概要

・ラーチヒル (Larch Hill)

ダブリン市内から11km離れた場所に存在する「大きな丘」中にあることから付けられた国立のキャンプ場である。宿泊施設はもちろんキャンプサイトも多くあり、各年代に合わせたアトラクションもあり、様々な活動を行うことを可能にする。

また、施設内にはアイルランド連盟の本部があり、指導者の講習など広い部屋もあり、頻繁に多くの活動が行われている。



常設テントのあるキャンプサイト



主に宿泊したロッジ



本部での講習の様子



施設内のアスレチックでの様子

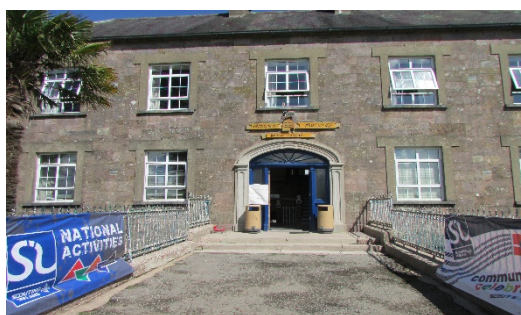
・マウント メレリー (Mount Melleray)

ウォーターフォード州にある国立のキャンプ場。今年は毎年行われている大きな大会であるフェニックスチャレンジが行われた。今回は800人規模のスカウトのキャンプも簡単に行われる施設で、スタッフ用の宿舎も多く充実したものである。

修道院に付属している学校を改築したものであるため、キャンプ施設の他にバスケットコート等の施設等も充実している。



施設内の修道院



アイルランド連盟の展示ルーム



キャンプサイトでの交流



広間での閉会式の様子

・キャッスル サンダーソン (Castle Sanderson)

川を挟んで、北アイルランドとの国境線近くに存在する国立のキャンプ場の1つである。2012年に出来た新しいキャンプサイトであり、村からは離れていてアクセスの面では少し不便ではあるが、離れにあるため野生の鹿や兎を夕方には見ることができるなど多くの自然に触れ合うことができる。

また、備品等も充実しているため、カヤックやオリエンテーリング等のアクティビティも充実している。



キャンプサイト内



施設内の屋内活動場所



国境線の川



施設内にある城跡

・ラフ ダン (Rough Dan)

ラーチ ヒルと同じくダブリン市内郊外に位置する国立キャンプサイトの1つである。他の国立のキャンプサイトに比べると充実したものとは言えないが、施設内の池でのアクティビティも楽しめる。施設内は広くあり、個人でも多くの利用者がキャンプ生活を楽しんでいた。

また、車で少し出かけると景気のいい湖を眺めることができ、ヒルウォークも短時間で行うことができる。



施設内広場



施設内ロッジのなかでの交流

お世話になったスカウトハウス

スカウトハウスは裕福な団ほど持っており、教会を改築したものが多い。また、ショッピングセンターのTESCOが協賛になり、団を支えているところもあった。

ハウスのなかは年代に合わせたブースが作られていたりして、それぞれのハウスが居住地の近くにあるため、平日でも活動を行うことを可能にしている。また、フェニックスチャレンジの打ち上げを行うなど、オンとオフを学ぶ場でもある。

13. 今後についての提言

今回の派遣は23WSJの誘致、派遣員の英語技能向上を目的として行われ、アイルランド連盟の協力の元に行われた派遣であるが、2年のみの実施であるため今後アイルランドで行われるかわからないので、今後このような派遣が行われることを推定し、今後についての提言を述べる。

問題点：派遣募集内容と実際に行った活動に差が感じられた。

改善点：もちろん今回は渉外担当を設けたが、それ以前に与えられる情報が少ない。渉外を設けるにしてもこちらから送るにせよ、相手からの返信が遅いため準備に困る。長期的スパンでアイルランド連盟と連絡を取り、活動の誤差の帳尻を合わせていくことが必要である。

8月実行プログラムの場合

前年12月 採用

ネット間でメンバー同士が交流しながら大体のことを決めることなどしておく

実施年4月 第1回事前訓練

今回、みな大学等の用事で事前に交流できなかった。長期でスカウトだけの派遣なので、直接的な打ち合わせでなくても、間接的なSNS等での連絡をできるだけ多く取ることが必要である。

1人1人が確立した意識を持つことが必要だが、派遣が実際に始まると、1人ではどうにもできないことが多少なりとも生じた時に、事前の交流が浅いことから、頼ることができない派遣員もいる。その派遣の派遣員にもよるが、早いうちに交流をしておくことは必要であると考ええる。

実施年6、7月 第2回事前訓練

今回、長期派遣であったため、短期派遣とは違い、精神面的にも体力的にも個人個人の人間関係も必要になる。なるべく早めからお互いを知っておくことにより潤滑な活動を行うことができると考える。



公益財団法人ボーイスカウト日本連盟

住所 〒113-8517 東京都文京区本郷 1-34-3

電話 03-5805-2561 (代表)

ファクシミリ 03-5805-2901 (代表)

2015年1月発行